

2026年度 入学式式辞

新入生の皆さん、びわこ成蹊スポーツ大学へのご入学、誠におめでとうございます。

本日ここに、本学の門をくぐられた皆さんを、教職員一同、心から歓迎すると共に、今日まで皆さんを支え、この日を迎えられましたご家族ならびに関係者の皆様にも、心よりお祝いと敬意を表します。また、本日はご多忙の中、ご来賓の方々のご臨席を賜り、式典を開催できますこと、本学教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

皆さんが、数ある体育・スポーツ系大学の中から、本学を選んでくれたことは、大変誇りであり、今後の皆さんの人生における進路や運命を決める舞台となることに、責任の重さを感じ、身が引き締まる思いです。本学は、2003年に比良山系と、琵琶湖に囲まれた自然豊かな比良の地に、日本で初めて「スポーツ」という名称を大学名に冠して誕生しました。これまでに5944名の卒業生を輩出し、それぞれが各界で活躍しています。

さらに、大学名に含まれる「成蹊」とは、建学の精神である「桃李不言下自成蹊」に由来します。これは、「徳が高い人、すなわち人格や品格がある人のもとには、その人を慕って人が集まり、そこには自然と道ができていく」という譬え(たとえ)です。

ここ「びわこ」の地で「スポーツに関する学び」を通して「人間力のある」人材、すなわち成蹊人を育成するという理念が大学名に込められています。

さて、2026年はミラノ・コルティナ五輪が開催された年であり、多くの日本人選手の活躍は、私たち、見るものを感動させてくれました。勝利の瞬間や新記録の誕生など、輝かしく見えるシーンに目がいきがちですが、注目してもらいたいのは、負けてしまった瞬間でありながらも、私たちの心に深く刻まれるシーンの数々です。なぜなら、そこには我々が突き詰めるスポーツから得られる「真の人間力」が見えてくるからです。その真の人間力を体現した一人が、アルペンスキー女子滑降、2歳でスキーを始め、これまで圧倒的な勝利数で世界の頂点に立ち続けてきたリンゼイ・ボン選手です。五輪という夢の舞台で、大転倒し、大怪我を負ってしまいました。スタートしてわずか13秒後のことでした。しかし彼女は、その結果に、後悔はないと言います。勝利のための戦略的なラインと、大怪我を負ったラインの差は、わずか数センチほどしかないのだそうです。そのリスクを承知で挑んだ事実こそが、彼女にとっての価値だったからです。また、リンゼイ選手は、自らの歩みを通して「人生における唯一の失敗とは、挑戦しないこと」とし、「大胆に挑む」勇気こそが人生の美しさでもあると述べています。

スポーツとは何か。この問いに対する一つの答えが、この言葉の中にあります。スポーツとは、勝つことだけを意味するものではありません。

最後まで挑戦すること。自分の限界と向き合うこと。そして、どのような状況であっても、前に進むことをやめないこと。それこそが、スポーツの持つ本当の価値なのです。

皆さんも、これまでの人生の中で、勝利や成功の喜びだけではなく、幾度となく失敗をし、悔しさを経験してきたことでしょう。思い通りにいかなかったこと。努力が報われなかった瞬間。挑み続ける意味を自分自身に問いかけたこともあったかもしれません。しかし、その経験こそ、スポーツが人を成長させる理由です。皆さんは晴れて本学で学びをスタートさせ、4年間で自分でも想像できなかったほどの成長を遂げることでしょう。その成長のためには、常に仲間や家族、周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、失敗を恐れずに挑戦する勇気を持ってほしいと願っています。

そして、この「挑戦」は、頭で考えるだけではなく、まさに身体を通して深く刻まれていくものです。

「身体はもう一つの知性である」という言葉があります。

人は頭で理解するだけでは、本当に何かを身につけることはできません。繰り返し身体を動かし、失敗し、そしてまた挑戦する。その過程の中で、感覚を磨き、状況を判断し、最善の行動を選び取る力、すなわち「人間力」を身につけていきます。

本学で皆さんが学ぶスポーツとは、まさにこの身体を通した学びです。

身体のメカニズムを科学的に理解すること、トレーニングの理論を学ぶこと、スポーツが人の健康や社会に与える影響を考えること。スポーツは、実践と学問の両方を通して、人間の可能性を探究する営みなのです。皆さんのスポーツ学を通した学びは多岐に渡り、のちに広く教育や地域社会、医療、国際社会など、さまざまな分野で活かされていくことになります。

大学生活の4年間は決して長い時間ではありません。しかし、この4年間に会う仲間や先生方、そして数々の経験は、皆さんの人生の礎となります。入学してまもなく、自然環境を生かした教育活動として、フレッシュマンキャンプセミナーが始まります。是非ともこの機会に積極的に仲間を作ってください。そしてその仲間とともに、声を掛け合い、励まし合いながら1000mを越える比良山への登山にも挑戦します。大自然の中での様々な体験を通して、自分自身の可能性を大きく広げてください。その後の大学生活は、きっと充実した楽しいものになるはずです。

最後に約束をしていただきたいことがあります。

それは、「挨拶」です。スポーツは相手や仲間をリスペクトし、試合や練習の前後には必ず「挨拶」を交わします。学内外を問わず、人と会ったなら、心のもった明るい元気な「挨拶」をしてください。挨拶する習慣を身につけた本学の学生、そして卒業生の社会における評判は、皆さんが想像する以上に高く、本学に来られる訪問者や近隣の方々からも、お褒めの言葉をいただいています。

この約束は毎年入学式でお願いしていて、先輩たちは率先して実行しており、先輩から脈々と受け継がれる本学の伝統となっています。皆さんもぜひ大切に守り、後輩へとバトンを繋いでください。

今日のこの新鮮な気持ちを忘れることなく、本学での4年間の挑戦を通して、自分自身の限界を越え、人として大きく成長されることを心から期待して、入学式の式辞といたします。

2026年4月3日
びわこ成蹊スポーツ大学
学長 黒澤 毅